

複数のシスコ製品におけるSnort 3 Generic Routing EncapsulationのDenial of Service(DoS)の脆弱性



Advisory ID : cisco-sa-snort3-gre-JNpMHRtv [CVE-2026-](#)

初公開日 : 2026-10-21 16:00

[20221](#)

注 : 2026-10-22 19:03

バージョン 1.1 : Final

CVSSスコア : [5.8](#)

回避策 : No workarounds available

Cisco Bug ID : [CSCwt83029](#) [CSCwt66239](#)

[CSCwu04383](#) [CSCwt83034](#)

日本語の情報は原文の英語の非公式な翻訳です。日本語と英語のバージョンに相違がある場合は、英語のバージョンが優先されます。

概要

Snort 3検出エンジンのGeneric Routing Encapsulation (GRE ; 総称ルーティングカプセル化) トンネルのカプセル化解除機能における脆弱性により、認証されていないリモートの攻撃者がSnort 3検出エンジンの予期しない再起動を引き起こす可能性があります。

この脆弱性は、ネストされたGREトラフィックの不適切な処理に起因します。攻撃者は、該当デバイスを介して巧妙に細工された GRE ペイロードを送信することにより、この脆弱性をエクスプロイトする可能性があります。エクスプロイトに成功すると、攻撃者はSnort 3検出エンジンの予期しないリロードを引き起こし、デバイスの設定に応じてバイパス(IPsec)またはサービス拒否(DoS)状態が発生する可能性があります。詳細については、このアドバイザリの「[詳細情報](#)」のセクションを参照してください。Snort 3検出エンジンが自動的に再起動します。手動による介入は必要ありません。

この脆弱性に対処するソフトウェア アップデートは、すでにシスコからリリースされています。この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザリは、次のリンクより確認できます。

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-snort3-gre-JNpMHRtv>

本アドバイザリは一連のアドバイザリの一部です。アドバイザリの完全なリストおよび各アドバイザリへのリンクについては、「[Cisco Advance Notification for Publication of October 21, 2026.](#)

[Security Advisories](#)」を参照してください。さらに、オープンソースSnort 3の改善と修正に関するその他のドキュメントについては、『[複数のシスコ製品に関するSnort 3セキュリティ強化リリース：2026年10月](#)』を参照してください。

該当製品

脆弱性のある製品

公開時点でこの脆弱性の影響を受ける製品については、次のセクションを参照してください。

オープンソースの Snort 3

この脆弱性は、公開時点でオープンソースのSnort 3に影響を与えました。

公開時点で脆弱性が存在するSnortリリースについては、このアドバイザリの「[修正済みソフトウェア](#)」セクションを参照してください。Snortの詳細については、[Snort Webサイト](#)を参照してください。

Cisco Secure Firewall Threat Defenseソフトウェア

公開時点で、Snort 3と次の侵入ポリシーのいずれかが設定されている場合、この脆弱性はCisco Secure Firewall Threat Defense(FTD)ソフトウェアに影響を与えました。

- セキュリティを介した接続
- セキュリティと接続のバランス
- 接続を介したセキュリティ
- 最大検出
- 任意のUDPルールが有効なカスタムポリシー

詳細については、『[Cisco Firepower Threat Defense Configuration Guide](#)』を参照してください。

脆弱性が存在するCisco Secure FTDソフトウェアリリースについては、このアドバイザリの「[修正済みソフトウェア](#)」セクションを参照してください。

Cisco Secure FTD ソフトウェアの Snort 設定の確認

Cisco Secure FTDソフトウェアリリース7.0.0以降の新規インストールでは、Snort 3がデフォルトで実行されます。Cisco Secure FTDソフトウェアリリース6.7.0以前を実行していて、リリース7.0.0以降にアップグレードされたデバイスでは、デフォルトでSnort 2が実行されます。

Snort 2は、Cisco Secure FTDソフトウェアリリース7.7.0以降では廃止されました。

Snort 3がCisco Secure FTDソフトウェアで実行されているかどうかを判別するには、「[FTDで実行されているアクティブなSnortバージョンの判別](#)」を参照してください。この脆弱性を不正

利用するには、Snort 3がアクティブである必要があります。

Cisco IOS XEソフトウェアでの統合脅威対策

公開時点では、Cisco IOS XEソフトウェア用のUnified Threat Defense(UTD)Snort IPS Engine、またはCisco IOS XE SD-WANソフトウェア用のUTD Engineの脆弱性のあるリリースを実行する次のシスコ製品がこの脆弱性の影響を受けました。

- 1000 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR)
- 4000 シリーズ ISR
- 8100 シリーズ セキュアルータ
- 8200 シリーズ セキュアルータ
- 8300 シリーズ セキュアルータ
- 8400 シリーズ セキュアルータ
- Catalyst 8000V エッジソフトウェア
- Catalyst 8200 シリーズ エッジ プラットフォーム
- Catalyst 8300 シリーズ エッジ プラットフォーム
- Catalyst 8500L エッジプラットフォーム
- Catalyst IR1800高耐久性シリーズルータ
- Catalyst IR8340高耐久性ルータ
- クラウドサービスルータ 1000V
- サービス統合型仮想ルータ

注：UTDはデフォルトではこれらのデバイスにインストールされていません。UTDファイルがインストールされていない場合、デバイスはこれらの脆弱性の影響を受けません。

公開時点で脆弱性が存在するCisco IOS XEソフトウェアリリースについては、このアドバイザリの「[修正済みソフトウェア](#)」セクションを参照してください。最も完全で最新の情報については、このアドバイザリの上部にあるバグ ID の詳細セクションを参照してください。

UTD が有効かどうかを確認する方法

デバイスでUTDが有効になっているかどうかを確認するには、show utd engine standard statusコマンドを使用します。出力のRunningの下にYesと表示されている場合、UTDは有効です。出力が表示されない場合、デバイスは影響を受けていません。次の例は、UTDが有効になっているデバイスでの出力を示しています。

```
<#root>
```

```
Router#
```

```
show utd engine standard status
```

```
Engine version      : 1.0.19_SV2.9.16.1_XE17.3
Profile             : Cloud-Low
```

System memory :
Usage : 6.00 %
Status : Green
Number of engines : 1

<#root>

Engine

Running

Health	Reason
=====	

Engine(#1):

Yes

Green	None
=====	

.
. .
. .

Cisco Meraki MXセキュリティアプライアンス

公開時点では、Cisco Merakiソフトウェアの脆弱性のあるリリースを実行する次の製品がこの脆弱性の影響を受けました。

<ul style="list-style-type: none">• MX64• MX64W• MX65• MX65W• MX67• MX67C• MX67W	<ul style="list-style-type: none">• MX68• MX68CW• MX75• MX84• MX85• MX95	<ul style="list-style-type: none">• MX100• MX105• MX250• MX400• MX450• MX600
--	---	---

Cisco Merakiダッシュボードに接続されているデバイスの自動アップグレードの詳細については、このアドバイザリの「[修正済みソフトウェア](#)」セクションを参照してください。

Cisco Cyber Vision

公開時点では、デバイスの設定にかかわらず、この脆弱性はCisco Cyber Visionに影響を与えていました。

公開時点で脆弱性が存在するCisco Cyber Visionリリースについては、このアドバイザリの「[修正済みソフトウェア](#)」セクションを参照してください。最も完全で最新の情報については、このアドバイザリの上部にあるバグ ID の詳細セクションを参照してください。

シスコのクラウド配信ファイアウォールとシスコセキュアアクセス

公開時点では、この脆弱性はデバイス設定に関係なく、Cisco Cloud-delivered Firewall(CDFW)およびCisco Secure Access(CSA)に影響を与えていました。

公開時点で脆弱性が存在していたCisco CDFWおよびCSAのリリースについては、このアドバイザリの「[修正済みソフトウェア](#)」セクションを参照してください。最も完全で最新の情報については、このアドバイザリの上部にあるバグ ID の詳細セクションを参照してください。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

このアドバイザリの「[脆弱性のある製品](#)」セクションに記載されている製品のみが、この脆弱性の影響を受けることが分かっています。

シスコは、この脆弱性が以下の製品には影響を与えないことを確認しました。

- Cisco Secure Firewall 適応型セキュリティアプライアンス (ASA) ソフトウェア
- Cisco Secure Firewall Management Center (FMC) ソフトウェア
- オープンソースの Snort 2

注：オープンソースのSnort 2は廃止されました。詳細については、「[Open Source Snort 2のサポート終了のお知らせ](#)」を参照してください。

詳細

次のCisco Secure FTDソフトウェアSnort 3設定パラメータは、Snort 3プロセスが再起動した場合のトラフィックの処理方法を制御します。これにより、この脆弱性のエクスプロイト時に、暗号化されたトラフィックの処理方法が変更される可能性があります。

- Snortのフェールオープン
- snort preserve-connection (接続維持)

詳細については、『[Cisco Secure Firewall Management Center Device Configuration Guide](#)』の「Snort Restart Traffic Behavior」の項、および『[Cisco Security Cloud Control:Secure Firewall Threat Defense Management](#)』を参照してください。

回避策

この脆弱性に対処する回避策はありません。

修正済みソフトウェア

シスコでは、回避策や緩和策（該当する場合）は、修正済みソフトウェアリリースへのアップグレードが利用可能になるまでの一時的な解決策であると考えています。この脆弱性を修正し、本アドバイザリに記載されているような将来のリスクを回避するために、シスコでは、本アドバイザリに記載されている修正済みソフトウェアにアップグレードすることを強く推奨します。

修正リリース

シスコの Product Security Incident Response Team（PSIRT; プロダクト セキュリティ インシデント レスポンス チーム）は、このアドバイザリに記載されている該当するリリース情報と修正済みリリース情報のみを検証します。

修正済みリリースの詳細については、次の項を参照してください。

オープンソースの Snort 3

発行時点では、次の表に示すリリース情報は正確でした。

左の列にはSnort 3ソフトウェアリリースが、右の列にはリリースがこのアドバイザリに記載された脆弱性の影響を受けるかどうか、およびこの脆弱性に対する修正を含むリリースが示されています。

Snort 3リリース	最初の修正済みSnort 3リリース
3.x	3.12.4.0

注：この修正は、セキュリティアドバイザリ『[複数のCisco製品Snort 3セキュリティ強化リリース：2026年10月](#)』で公開されている広範な強化機能の一部としても含まれています。

Cisco Secure Firewall ASA、Cisco Secure FMC、Cisco Secure FTD の各ソフトウェア

お客様が Cisco Secure Firewall ASA、Cisco Secure FMC、Cisco Secure FTD の各ソフトウェアにおける脆弱性のリスクの有無を判断できるように、シスコは [Cisco Software Checker](#) を提供しています。このツールを使うことで、特定のソフトウェアリリースに関連するすべてのシスコ セキュリティ アドバイザリを検索でき、それぞれのアドバイザリで言及された脆弱性を修正した最初のリリース（「First Fixed」）を特定できます。また、該当する場合には、Software Checker により判別されたすべてのアドバイザリに記載のすべての脆弱性が修正された最初のリリース（「Combined First Fixed」）を特定できます。

このツールを使用するには、「[Cisco Software Checker](#)」ページの手順に従います。または、次のフォームを使用して、特定のソフトウェアリリースに影響を及ぼす脆弱性を検索します。このフォームを使用するには、次の手順に従います。

1. ツールで検索するアドバイザリを選択します。すべてのアドバイザリ、[セキュリティへの影響の評価 \(SIR\)](#) が「重大」または「高」のアドバイザリのみ、またはこのアドバイザリのみを選択します。
2. 該当するソフトウェアを選択します。
3. 該当するプラットフォームを選択します。
4. リリース番号を入力します。たとえば、Cisco Secure Firewall ASA ソフトウェアの場合は 9.20.3.4、Cisco Secure FTD ソフトウェアの場合は 7.4.2 と入力します。
5. [チェック (Check)] をクリックします。

2		Critical,High,Medium
このアドバイザのみ		Cisco ASAソフトウェア
あらゆるプラットフォーム		
Enter release number		Check

Cisco Secure FTD デバイスのアップグレード手順については、該当の [Cisco Secure FMC アップグレードガイド](#) を参照してください。

その他のリソース

最適なCisco Secure FTDソフトウェアリリースの判別に関するサポートについては、次の推奨リリースに関するドキュメントを参照してください。セキュリティアドバイザリで新しいリリースが推奨される場合、アドバイザリのガイダンスに従うことをお勧めします。

[Cisco Secure Firewall Threat Defense 互換性ガイド](#)

Cisco IOS XEソフトウェアのUTD:[CSCwu04383](#)

発行時点では、次の表に示すリリース情報は正確でした。最も完全で最新の情報については、このアドバイザリの上部にあるバグ ID の詳細セクションを参照してください。

次の表では、左の列にCisco IOS XEソフトウェアリリースを示します。右の列は、リリースがこのアドバイザリに記載された脆弱性の影響を受けるかどうか、およびこの脆弱性に対する修正を含むリリースを示します。

次のUTD Cisco IOS XEソフトウェアイメージには、オープンソースのSnort 3バージョン 3.12.4.0が含まれています。

Cisco IOS XE ソフトウェア リリース	第 1 修正済みリリース
17.12	17.12.8(secapp-utd.17.12.08.1.2.8_SV3.12.4.0_XE17.12)
17.15	17.15.6(secapp-utd.17.15.06.1.0.21_SV3.12.4.0_XE17.15)

Cisco IOS XE ソフトウェア リリース	第 1 修正済みリリース
17.18	17.18.5
26.1	26.1.2(secapp-utd.26.01.02.1.0.6_SV3.12.4.0_XE26.1)
26.2	26.2.1

Cisco Meraki MXセキュリティアプライアンス

Snortは、Cisco Merakiセキュリティアプライアンスに、Merakiダッシュボードを通じて自動的に管理される脅威保護サービスの一部としてネイティブに統合されます。MerakiファームウェアまたはMerakiデバイス用Snort 3パッケージのダウンロードには、お客様の操作は必要ありません。2026年10月21日の時点で、このアドバイザリに記載されているモデルのうち、オンラインでCisco Merakiダッシュボードに接続されているすべてのMerakiモデルがSnort 3パッケージで自動的に更新されました。

Cisco Cyber Vision:[CSCwt83029](#)

発行時点では、次の表に示すリリース情報は正確でした。最も完全で最新の情報については、このアドバイザリの上部にあるバグ ID の詳細セクションを参照してください。

次の表では、左の列にCisco Cyber Visionのリリースを、右の列にリリースがこのアドバイザリに記載された脆弱性の影響を受けるかどうか、およびこの脆弱性に対する修正を含むリリースを示します。

Cisco Cyber Visionリリース	第 1 修正済みリリース
5.4 以前	修正済みリリースに移行。
5.5	5.5.0
5.6	5.6.0

Cisco CDFWおよびCSA:[CSCwt83034](#)

Snort 3は、Snort 3侵入防御システム(IPS)テクノロジーの一部としてCisco CDFWおよびCSAにネイティブに統合され、トラフィックの検査と脅威のブロックを行います。お客様のアクションは必要ありません。2026年10月21日の時点で、すべてのCisco CDFWおよびCSAクラウドインスタンスがSnort 3パッケージで自動的に更新されています。

不正利用事例と公式発表

Cisco PSIRT では、本アドバイザリに記載されている脆弱性の不正利用事例やその公表は確認しておりません。

送信元

この脆弱性は Cisco Cisco Technical Assistance Center (TAC) サポートケースの解決中に発見されました。

URL

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-snort3-gre-JNpMHRtv>

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	Status	日付
1.1	Cisco IOS XEソフトウェアの修正済みリリースに関するUTDの表を更新。	修正リリース	Final	2026年10月22日
1.0	初版リリース	—	Final	2026年10月21日

利用規約

ソフトウェアのダウンロードおよびテクニカルサポート

Cisco.com の [シスコサポート & ダウンロード](#) ページには、ライセンスとダウンロードに関する情報が記載されています。このページには、マイデバイス (My Devices) ツールを使用するお客様のカスタマーデバイスサポート範囲も表示できます。お客様がソフトウェアをダウンロードできるのは、シスコから直接、あるいはシスコ認定再販業者やシスコ認定パートナーを通じて調達されたもので、ライセンスが有効なものに限ります。

シスコから直接購入したがシスコのサービス契約をご利用いただいていない場合、また、サードパーティベンダーから購入したが修正済みソフトウェアを購入先から入手できない場合は、[Cisco Technical Assistance Center \(TAC \)](#) に連絡してアップグレードを入手してください。無償アップグレードの対象製品であることを証明していただくために、製品のシリアル番号と、本アドバイザリの URL をご用意ください。

[ソフトウェアのアップグレードを検討する](#) 際には、関連するシスコ製品の[アドバイザリ](#)を定期的に参照して、侵害を受ける可能性とアップグレード ソリューション式を確認してください。いずれの場合も、アップグレードするデバイスに十分なメモリがあること、および現在のハードウェアとソフトウェアの構成が新規リリースで引き続き正しくサポートされていることを十分に確認してください。不明な点については、Cisco Technical Assistance Center (TAC) もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

利用規約の詳細

シスコは、商品適格性または特定目的への適合性に関する保証を含め、明示的か黙示的かを問わず、いかなる種類の保証も表明しません。前述の一般論に限定されることなく、シスコは、本情報の正確性または完全性を保証するものではありません。コンテンツは「現状のまま」提供されます。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本セキュリティアドバイザリに含まれる情報のコピーや要約には、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。本セキュリティアドバイザリの最新版については、[シスコ セキュリティ アドバイザリ](#) ページをご覧ください。Cisco Product Security Incident Response Team (PSIRT; プロダクト セキュリティ インシデント レスポンス チーム) は、このアドバイザリに記載されている該当するリリース情報と修正済みリリース情報のみを評価します。詳細については、[シスコのセキュリティ脆弱性ポリシー](#)を参照してください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。